



## 2017 オートバックス全日本カート選手権 OK部門 第1戦・第2戦

開催場所 スポーツランド SUGO 西コース(宮城県)

開催日 4月22日・23日

参加台数 OKクラス 25台

天候 晴れ

路面状況 ドライ

～INTREPID JAPAN CORSE～

監督:佐藤奨二 ドライバー:佐藤巧望

メカニック:伊藤進 エンジン担当:K SPEED WIN



## 2017 全日本カート選手権 OKクラスついに開幕!!

2017年4月22-23日全日本カート選手権の最高峰クラスがついに開幕。KFエンジンからOKエンジンとなりマシンの最低重量はKF時代より13キロも減り145キロ。BRIDGESTONE、ヨコハマ、ダンロップの主要タイヤメーカーが威信をかけ製造するスペシャルタイヤは凄まじい進化をみせ、全日本カート選手権は世界最速のカテゴリーへと変貌をとげた。



## 【練習走行】コースレコードを1秒近く更新!!

大方の予想通りOKクラスは速かった。練習走行ではこれまでのSUGOコースレコードを0,8秒ほど上回る選手もおり、(この段階では選手やタイヤメーカーによって仕様の違うタイヤが混在して一概に比較は難しいが)タイムトライアルでのコースレコード更新はほぼ間違いないものとなった。佐藤巧望も順調に走行しセットアップの方向性や新型エンジンの特徴をチームと煮詰めていった。



## 【タイムトライアル】B組 7位 / 全体 15位

土曜日の午後 15 時 10 分過ぎ、OK クラス タイムトライアルが A 組より始まった。例年ここ SUGO では A 組が有利とされる。天候は晴れ、風があるものの路面温度はやや高い。全長 952 メートルのサーキットにして想像もつかない 36 秒台に入るかと思われたが 37,045 秒をトップとして A 組はタイムトライアルを終える。続いて始まった B 組はやはり A 組に比べて動きが重くトップタイムは 37,145 秒。佐藤巧望は 0,269 秒差の 7 位。ブリヂストンタイヤの中では 3 位につける。A 組+B 組の総合順位は 15 位。15 位になったとはいえタイムは TOP から 0,3 程。また予選は 17 周、決勝 28 周と長丁場であるため、展開次第では上位に食い込むことも十分可能だ。夕方に行われる予選レースに向けて準備を進める。

## 【第1レース 予選】 12 位



16 時 40 分、気温も路面温度も下がり始める中、予選が始まる。スタートが得意な佐藤巧望は前方の選手のエンジンがかぶり、珍しく順位を 20 位以下へと下げてしまう。しかし、低温でのブリヂストンタイヤの性能は高く順位も徐々に回復。結局 12 位でフィニッシュとなった。このレースで佐藤巧望は 10 台前後のマシンをパス、昨年度まで装着可能であったハンドブレーキシステムがないなか、またフロントスポイラーが脱落した際は 10 秒ペナルティというリスクがあるなか得意の鋭いブレーキングで順位を上げてみせた。土曜日のレースはここまでとなり、日曜日は朝の公式練習ののち、第1レース決勝となる

## 【第1レース 決勝】 5 位

決勝日の日曜はレースウィークで最も良い天候となったが風があり、まだ路面温度も上がりきってはいない。1 週のスタートディレイドののち、いよいよ決勝レースが始まった。スタートが得意な佐藤巧望はスタート～6 コーナーまでの間に順位を 9 位にまで上げる。佐藤の後ろには佐々木大樹、前方にも優勝経験のある強豪選手がひしめく。佐藤は 5 週目にベストラップを出すと前方でバトルがあったこともあり徐々にポジションアップ。レースは残り 5 周、予選でもパッシング等でプッシュしていた佐藤はタイムが徐々に後退、後方の佐々木大樹が接近してくる。しかし佐藤は後半も集中力を切らすことなく大先輩でここ SUGO7 連勝中の佐々木を抑え 5 位フィニッシュ。決勝自己最高位を獲得した。



## 【第2レース 予選】 14 位

第2レース予選は日曜のお昼頃、1 週のディレイドののちレーススタート。大きな混乱もなく始まったレースは第1レースでタイヤをいかに長く持たせるか、という課題を再認識した選手が多いためか、ほぼ全選手が等間隔で走行しバトルが起こらない。第1レースで上位を走った選手が下位に沈むなど、一部選手の入れ替わりはあったものの、そのままゴール。佐藤巧望は 1 ポジションアップの 14 位でフィニッシュした。しかし、第2レース決勝開始時刻は夕方。さらに太陽は出ているものの風は冷たく強い。朝方行われた第1レース決勝のようなコンディションか、もしくは更に冷え込めば表彰台も獲得可能ではないか。予選順位は半分以下とは言え、可能性をのぞかせる走りであった。

## 【第2レース 決勝】 13位

4月23日 日曜日 午後4時過ぎ、ほぼオンタイムでOKクラスの決勝が行われる。西日が傾きさらに日が陰りがちだったためかなり寒さを感じるスポーツランド SUGO。しかし路面温度は午前中の決勝レースよりはほんのり暖かいようにも感じられる。スタート時、隊列はすぐにそろい、ディレイドなしですぐに日章旗が振られた。オープニングラップ、数カ所で砂煙が上がる中 佐藤は3つポジションを上げ、11位でホームストレートに帰ってくる。その後も徐々にポジションを上げ、第1レース決勝と同じ流れとなる。しかしレース中盤、佐藤はバトル中 タイヤに多くのダストを拾い上げてしまう。世界最速のコーナリングを生み出すスペシャルタイヤで拾ってしまったダストは、そのご8周近くにわたって佐藤を苦しめタイムを0,3~0,8秒ほど遅くした。レース後半には見劣りしないタイムに復帰するもののポジションは18位にまでドロップ。そのままゴールとなる。レース終了後、前方選手のフロントスポイラー脱落等によりポジションは13位に上昇したが、この日 目標の表彰台に立つことは叶わなかった。しかし、強豪選手を抑え、パッシングも多くこなし、佐藤巧望は確実に進化を遂げている。あと一つ何か良い展開やタイヤの使い方次第では、確実に表彰台を獲得できるという自信につながるレースになったことは間違いない。



### #25 ドライバー 佐藤巧望 コメント



今回はOKと言う新しいカテゴリでのレースでトップカテゴリ2年目と言うより1年目ルーキーと言う新たな気持ちで挑みました。

まずタイトラで出遅れてしまい15位。

初戦は追い上げのレースで5位でしたが、第2戦は後ろの集団に飲み込まれてしまいそのまま順位を戻せませんでした。

次戦は未知のコースなのでしっかり対策して、今回の経験を活かし挑みます。

### INTREPID JAPAN CORSE 佐藤奨二 監督

新たなシーズンがスタートし、新カテゴリが始まりチームとしてどの様に対策したら良いのか、手探りの状況で挑んだ開幕戦。

新カテゴリになりラップタイムが大幅に上がる事が予想され、体力的に厳しくなるカテゴリになると想定し、オフシーズンから精力的に体力強化をさせた結果、ある程度成果があった事が何よりも収穫でした。今回車両に関してまだまだ課題が残る結果となりましたので、次戦までにしっかり分析し対策したいと思います。

